

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の意見等
学校運営	教育課程	○特色のある教育課程を工夫するとともに、PDCAサイクルを意識し、評価改善に努める。 ◇PDCAサイクルを生かした教育課程の質的、量的な管理を行う。	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	・学校行事等の反省及び改善点についてデータ入力して、毎月全職員で確認・把握ができています。 ・社会科見学等が予め教育課程に位置付けられているので計画が立てやすかった。 ・各学年各教科において、しっかりと授業時数を確保することができた。	A	・今後も行事反省のデータ入力(ペーパーレス化)を継続する。保管場所を決めて全職員で常に関覧できるようにし、行事の計画立案時に参考にできるようにする。 ・次年度も予め学校暦に記載する。	・親子ふれあい活動や全校児童集会等、工夫された内容で実施され児童・保護者共に楽しめる活動だった。 ・行事反省等の評価を数値で記入するとわかりやすい。 ・評価(ABC)の基準を明らかにすると良い。 ・改善策についてはグランドデザインに取り入れていくとよい。 ・地域ボランティアや交通指導員等、地域の方々が様々なところで関わり、学校を盛り上げてくれていることは有り難い。 ・シルバー人材を活用するのもよいが、PTA(保護者)にもボランティアを要請するなど、さらに活躍の場を与えてもよいのではないか。
	組織運営	○校務のバランスを考えた人材配置に努める。 ◇健全な児童を育てる職員研修の工夫を行う。	適材適所 研修の充実 働き方改革	・研究授業後の研究会では視点を明確にすることにより充実した話し合いを行うことができた。 ・ICTの効率的な活用のため、今後も情報教育研修を続けていきたい。	B	・研究授業等を含め、ゆとりのある研修計画を立てる。 ・ICTの活用については、毎年進化するので、実践例を通じた研修に取り組む。	
	環境整備	○校内外の整理整頓、環境整備に努める。 ◇児童の学習環境の整備と学校設備等の整理に努める。	施設利用 安全点検 教室配置	・日課に位置付けられており、活動計画に沿って進められた。 ・夏季休業中の職員作業にて備品等の整理整頓、廃棄が実施された。	B	・環境整備については、来年度も保護者や地域ボランティア等に協力を仰ぐ。 ・今後も計画的に備品等の整理を実施する。	
	地域連携	○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇学校から情報発信と情報収集を行い地域社会と好ましい関係をつくる。	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	・地域ボランティアの方々に来ていただき、読み聞かせやミシン学習、クラブ活動等で協力を得た。児童一人一人に温かい声かけやご指導をいただき、学習意欲が向上するなど、高い教育効果が得られた。	A	・地域ボランティア、シルバー人材と連携を図り、さらに授業支援や学校環境整備に努めていく。	
知の教育	各教科等・学習指導	○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇自ら学ぼうとする意欲を育てる学習指導の工夫をする。	主体的・対話的・深い学び	・自主学习ノートに主体的に取り組む児童が増えた。 ・児童アンケートでは、「授業中、姿勢正しく、先生の話をよく聞いて勉強ができる。」という質問に対し、9割の児童が「あてはまる」以上と答えている。	B	・自主学习ノートの内容がさらに充実したものになるようにする。 ・学習後の「ふり返り」の視点を再確認していく。	・自主学习ノートの表彰は子どもにも楽しみにしていて、学習意欲の向上に繋がっている。 ・学年だよりや学習だよりで授業の様子や取組等を知ることができて有り難い。
	情報教育	○一人一台の情報端末の有効活用に努める。 ◇目的に応じたタブレット活用の工夫を行う。	プログラミング教育 情報活用能力	・一人一台端末(タブレット)の効果的な活用について、学年に応じて取り組んできた。	B	・タブレットを使った効果的な指導法について、ミニ研修を継続的に実施していく。	・タブレットの効果的な活用については今後も継続していくとよい。
	国際理解教育	○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。 ◇身近な英語に親しみながら、コミュニケーションを図る資質・能力を育てる。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケーション	・ALTとの交流やオンライン活動を実施し、コミュニケーション能力の向上が図れている。	A	・現状を継続していく。 ・さらにまなびPCの使い方を充実させていく。	・子どもたちがALTの先生とのやりとりを楽しみにしているので、今後も継続してほしい。

心の教育	児童・生徒指導	○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。 ◇学びに向かう集団作りを意識して、学業指導の充実を図る。	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	・ケース会議や児童打合わせ等で、細やかな情報を共有できているため、問題行動の未然防止に繋がっている。 ・時間前行動、廊下の歩行の仕方について、各学年で指導を継続してきた。	B	・基本的な生活習慣の定着については、職員全体で共通理解を図る。また、児童委員会等を活用して、定期的に意識付けをするような取組を行う。	・他学年の先生も一緒に遊んでくれるなど、多くの子ども達と関わりをもって来て有り難い。 ・学校ができることで、子どもの正しい生活習慣を身に付けさせていければよい。
	特別支援教育	○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。 ◇個々の児童の特性の理解とそれに応じた具体的な支援の充実を図る。	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	・特別支援コーディネーターを中心とした特別支援教育への取り組みが充実していた。	A	・特別支援教育についてミニ研修を行うことにより、さらに配慮児童等への支援に繋げる。	
命の教育	健康教育	○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇健康生活に関する実態を把握し、日常生活の問題点や課題を見つけ、自ら考え行動できるようにする。	保健教育 保健管理	・マラソン大会に向けての練習やなわ跳び週間等により取組み、体力向上につなげることができた。 ・ハンカチの不携帯やマスク忘れ等が見られた。	B	・遊具を使った補助運動を取り入れ、体力の向上に努める。 ・家庭と連携した指導を行う。	・陸上大会やマラソン大会、なわとび検定等で、子どもが目標を決めて前向きに取り組むことができた。 ・避難訓練については、警察等を有効活用するとよい。 ・自分の身は自分で守る自己防衛力を身に付けさせたい。
	安全教育	○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。 ◇安全についての知識を高め危機回避能力を育成する。	危機管理 生活・交通・災害安全	・本年度は引渡訓練を実施し、災害等時に児童の安全を確保し、保護者に確実に引渡す方法について確認できた。 ・月一回、登校班会議を位置付けたことにより、児童が自分たちの登下校についてふり返るようになった。	A	・登校班会議を継続して実施し、バス乗車や正しい登下校の仕方についてさらに意識付けをする。	
	食に関する指導	○食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。 ◇衛生的な食生活の習慣形成に努める。	給食管理 アレルギー	・アレルギー対応について、職員間で情報共有を図り、徹底することができた。 ・給食時のマナーについては、指導を継続した。	B	・市から出される「食に関する指導」や「給食だより」等を活用し、食習慣に繋げていく。 ・配膳の仕方も含めた給食指導のあり方を年度初めに共通理解を図る。	

那須烏山市立七合小学校